



# 市立横手病院 臨床研修医募集のご案内



～大切な2年間を充実させるために～



市立横手病院

<http://www.yokote-mhp.jp/>

# 医師としての第一歩を踏み出す皆さんへ



院長 丹羽 誠

臨床医としての歩みは、「腕を上げ続ける歩み」でなければなりません。腕を上げ続けるためには「患者さんから学び続ける」ことです。診断が正しかったか、妥当であったか。治療が正しかったか、妥当であったか。患者さんから学び続け、必要があれば修正をすることで、腕を上げ続けることができます。

臨床医の仕事は、全うに診断し、全うに治療をすること、そして「患者を安心させる」ことです。患者を安心させるとは、どういうことでしょうか。説明は最も大切ですが、「気安め」の説明はできません。決して虚偽の説明はしないと心に決め、患者の心の状態・希望に沿うための準備、五感を研ぎ澄ましている必要があります。

医師には大きな責任がありますが、決して一人で抱え込まないことです。先輩医師や同僚の看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、メディカルソーシャルワーカーなど、多くの心強い仲間とチームを組むことで、さらに良い仕事ができます。そして進歩できます。

私共の市立横手病院は明治22年に設立されました。現在までの130年近くの歴史は、先輩たちの努力と進歩、そして住民から必要とされ支持されてきた歴史です。

地域住民から信頼される病院であるために、安心できる良質な医療を提供し、心触れあう人間味豊かな対応をすることを、病院の基本理念としています。

この市立横手病院で「腕を上げ続ける歩み」を始めようとしてみませんか。

## 認定施設



日本医療機能評価  
機構認定基準



人間ドック健診施設  
機能評価認定施設

## プライマリ・ケアを学ぶ！

## 急性期医療を実践する！

## 多くの手技を経験する！

# 市立横手病院の研修環境

市立横手病院は、明治22年に開設された秋田県で最も歴史のある病院です。平成23年に増改築工事が完了し、外来、病棟、検査室などが新しくなりました。病棟は病室の4床化をはじめ、個室やドック宿泊室が整備されております。診療機能面では、消化器センター、外来化学療法室、病理検査室、高機能MRIを整備し、機能強化しております。また、平成26年には、入院患者さんの状態が安定した後も入院療養を継続し、安心して在宅復帰できる準備を整えられるよう「地域包括ケア病棟」を設け、地域の皆様に良質な医療を提供できる体制づくりに努めています。

当院は、研修医において経験・習得できる手技が圧倒的に多く、特に消化器内科では集中して症例を経験することができます。2年目の研修終了時点では、ルーチンの上部・下部内視鏡検査、超音波検査を問題なく行えるようになり、胃粘膜下層剥離術(ESD)も数例経験できます。また、近年は糖尿病内分泌内科や循環器内科も充実してきており、後期研修医やたすきがけで選択する病院としても定評があります。



県内トップレベルの消化器センター

## 救急告示病院・DPC対象病院

救急医療に関する技量を有する医師が常時従事し、救急医療を行うための施設・設備を有する救急告示病院として地域の中核的医療機関としての役割を担っています。

また、当院は平成21年度より傷病名や診療内容に応じて厚生労働省が定めた1日当たりの定額の医療費を基本として計算する「包括方式」のDPC対象病院に認定されました。いち早く完全電子カルテ化を進めるなど時代の変化に速やかに対応し、健全で安定的な病院運営を心掛けています。

## 消化器センター

消化器疾患全般に対応できる消化器センターを平成22年に設置しました。患者さんにとって最適の治療法をめざし質の高い医療の提供を常に目指しています。特に食道・胃・大腸の早期がんに対する粘膜下層剥離術は年々増加しており、他地域から紹介される症例が増えています。肝胆膵の分野では、腹部超音波診断のレベルが高く、肝炎から肝硬変、肝がんに至るまで、放射線科医と協力して自院で完結した治療を行っています。また、外科との連携で腹部の救急に力を入れており、より速く正確な診断と患者さんにとって十分かつ最も負担の少ない治療を目指しています。



最新機種の内視鏡

## 診療科目

内科、消化器内科、心療内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内分泌内科、頭痛・脳神経内科、神経内科、血液腎臓内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科

病床数 .....229床

(一般病床 225床 感染症病床4床)

外来患者数 .....544人/日

入院患者数 .....52,999人/年

救急外来患者数 .....14人/日

救急車搬送件数 .....986件/年

手術件数 .....1,023件/年

分娩件数 .....186件/年

令和2年度実績

## 手術室



## 東北初の最新CT導入(H29.9月)



## 指導医・専門医

経験豊富で多彩な指導医・専門医が、研修医の皆さんの成長をサポートします。

### 基本領域の認定施設



日本内科学会  
教育関連認定施設



日本外科学会  
専門医制度関連施設



日本整形外科学会  
研修施設



日本泌尿器科学会  
専門医教育施設

### その他の認定施設

【specialtyの学会】

- ・日本消化器病学会
- ・日本消化器外科学会
- ・日本脊椎脊髄病学会

【その他】

- ・日本消化器内視鏡学会
- ・日本超音波医学会
- ・日本人間ドック学会
- ・日本がん治療認定医機構
- ・日本内視鏡外科学会
- ・日本静脈経腸栄養学会

### 指導医・専門医 在籍数

指:指導医 専:専門医

学会名	指	専	学会名	指	専	学会名	指	専	学会名	指	専
日本内科学会(総合内科専門医)				2		日本整形外科学会		3	日本脳卒中学会		1
日本消化器病学会	3	4	日本外科学会	1	4	日本脊椎脊髄病学会	1		日本頭痛学会		1
日本消化器内視鏡学会	1	2	日本消化器外科学会	1	1	日本リハビリテーション医学会		1	日本脳神経外科学会		1
日本肝臓病学会		1	日本大腸肛門病学会		1	日本産科婦人科学会		2	日本糖尿病学会		1
日本循環器学会		1	日本小児科学会		1	日本泌尿器科学会	1	1	日本人間ドック学会		1
日本核医学会		1	日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会			放射線治療専門医		1			

## 大切な2年間で充実させるために



臨床研修 プログラム責任者  
外科統括科長 伊勢 憲人

当院は一般225床、感染症4床を持つ秋田県南部に位置する急性期病院です。その歴史は古く、自治体病院として130年以上の歴史があります。病院の規模はそれほど大きくはありませんが、横手市以外の周辺地域からの患者さんも多く、地域に根差し、なくてはならない病院となっています。初期研修医も数多くの症例を経験できるので、2年間で医師としての基本的な臨床能力を身につけることができます。また指導医の理解もあり、研修医のうちから経験、習得できる手技が多く、プライマリーケアを学び、基本手技を習得するには最適な環境です。

当院の研修プログラムは選択期間をできるだけ長くとり、プログラムの自由度を重視しています。さらに当院で研修ができない診療科に関しては、協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設での研修が可能です。これまでの初期臨床研修医は、皆十分に成長し臨床研修を修了、その後当院や他院の後期研修へ進んでいます。

秋田県横手市は人口約8万8千人程(令和2年)で、自然がとても豊かな城下町です。漬物等の発酵食品、日本酒・ワイン・地ビール生産、ぶどう、りんご、さくらんぼ等の果樹栽培も盛んなところです。病院の前を横手川が流れ、後ろには横手城をみることができます。晴れた日には秋田山形県境にある鳥海山(通称出羽富士:標高2,236m)がとてもきれいに見えます。このように自然環境には大変恵まれています。病院内の環境も良好で、医師だけではなく、コメディカルスタッフ、事務職員を含め病院全体で研修医を支える体制が整っています。当院では安心して初期臨床研修が受けられます。医学生のみならず、このような最適な環境の元で一緒に働きましょう。

### 臨床研修の 目標の概要

医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力(態度、技能、知識)を身につける。

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を習得する。

## 研修プログラムの特徴

当院では内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療を必修分野とし、一般外来での研修を含めることとします。

1年次で内科24週、救急部門4週、外科4週、小児科8週、産婦人科4週、精神科4週を研修します。

2年次で地域医療を4週、残りは当院で研修可能な内科、救急部門、産婦人科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、放射線科や協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設において他の科目(麻酔科、呼吸器内科、保健医療・行政)を研修したい場合に対応が可能です。

## プログラム例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	内科 (24w)						救急 (4w)	外科 (4w)	小児 (8w)	産婦 (4w)	精神 (4w)		
2年次	地医 (4w)	選択 (44w)											

※救急部門は、4週のパック研修の他、日当直(2年間で40日以上)を含め12週の研修とします。

※臨床研修協力施設(横手保健所・赤十字血液センター・市立大森病院)における研修期間は2年間で合計12週以内です。

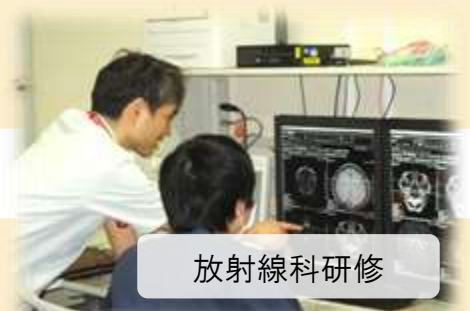
※一般外来研修は、地域医療にて1週、その他を当院選択科での一般内科による並行研修をあわせた4週以上の研修です。

## 経験すべき症候

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候(29症候)



外科研修



放射線科研修



小児科研修

## 経験すべき疾病・病態

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)(26疾病・病態)

## 研修医セミナー

年間を通じて毎月第1・第3火曜日に研修医を対象とした症例検討会を、毎週金曜日には研修医勉強会を開催し、経験豊富な各科の指導医が現場で役立つ実践的な知識・技術を伝授しています。



研修医症例検討会

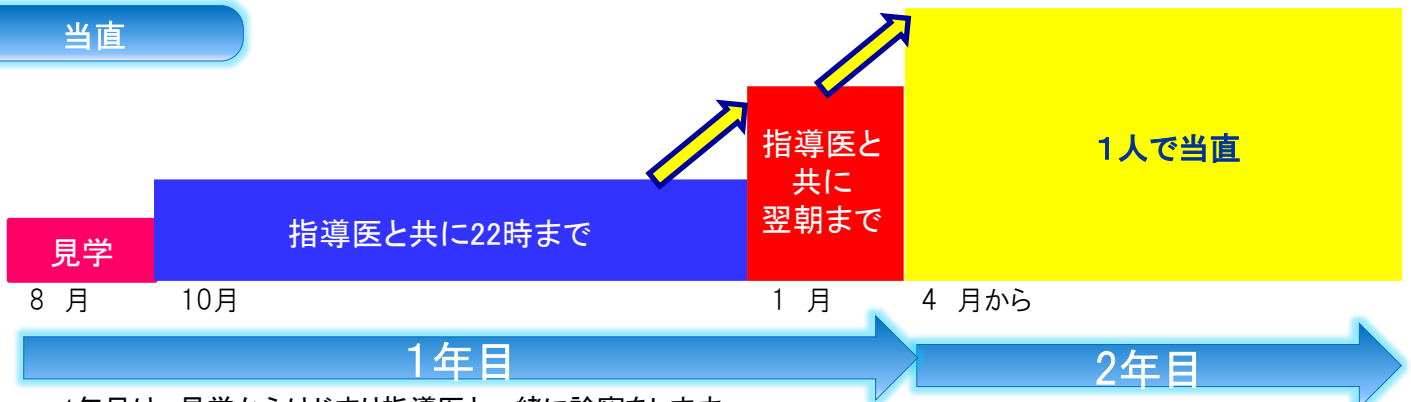


研修医勉強会

外科カンファレンス	毎週月曜
<b>研修医症例検討会</b>	<b>第1・3火曜</b>
医局勉強会	第2・4火曜
消化器勉強会	第2・4水曜
内科・外科・放射線科カンファレンス	毎週木曜
<b>研修医勉強会</b>	<b>毎週金曜</b>
<b>救急カンファレンス</b>	<b>随時</b>
消化器内科カンファレンス	第1・3・5水曜
臨床病理カンファレンス	随時(月1回程度)

主なカンファレンス

## 当直



1年目は、見学からはじまり指導医と一緒に診察をします。

2年目から1人で当直をしますが、オンコール体制を整えてますので、安心して指導医へ相談がすることができ、研修医をバックアップしています。

## 環境



研修医室

研修医室があり、研修医ひとりに1台の机と電子カルテ端末が設置されています。完全電子カルテですので、研修医室にいながら検査Dataや画像をチェックし、カルテ記載ができます。



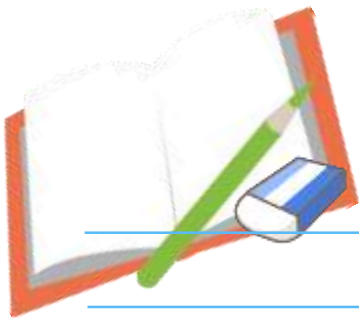
インターネット環境

「メディカルオンライン」、「医中誌Web」、「UpToDate」を利用でき、閲覧できる文献が豊富です。また、医局及び研修医室内は、Wi-Fi環境が整っています。



腹腔鏡シミュレーター

研修医室に腹腔鏡手術手技のトレーニングができるシミュレーターがあり、先輩医師から学ぶことができます。



## 初期研修医1年目の一週間の日記

### ●月曜日

今日は腹腔穿刺を行った。指導医の先生に指導していただきながら無事に行うことができた。一つ一つの手技を丁寧に行っていきたい。

### ●火曜日

火曜日は研修医の症例検討会がある。  
今日は他の研修医が経験した貴重な症例を学んだ。  
一人で経験する症例には限りがあるので様々な症例を共有できるのはありがたく、勉強になる。



### ●水曜日

指導医の先生と一緒に内視鏡検査に参加した。  
目が慣れてくると内視鏡検査はとても面白い。  
また生検やポリペクがあれば介助に入る。  
次第に慣れてきて上手く介助できるようになってきた。

### ●木曜日

今日は血液培養を取った。手技の後は指導医の先生からのフィードバックがあるので自分のどこが悪かったかが分かって安心だ。次回の手技に活かしていきたい。

### ●金曜日

毎週金曜日は研修医勉強会がある。  
今日は放射線科の先生が頭部の画像診断について講義してくださいました。典型的なものから非典型的なものまで、見逃してはいけないものばかりなので大変勉強になった。





## 研修医からのメッセージ

卒後4年目の石成隆寛と申します。今は秋田大学放射線科に所属しています。初期研修をここで過ごした者として、当院での研修の所感をお話したいと思います。

手技の習得に関して、まず県内屈指の内視鏡の件数を誇る病院であり、消化器領域の手技習得では群を抜き秀でた体制を備えています。当院で消化器内科を志す先輩が数多く居ることが何よりの証左です。消化器内科だけでなく、外科領域では腹腔鏡手術に精通した上級医が数多く在籍していますし、整形外科領域ではcommonな例だけでなく関節鏡や脊椎外科など更に専門領域の手術が執り行われており、市中病院ながらバリエーションに富む研修を過ごすことができます。当院は中規模の地域基幹病院であり、病棟管理の面では(秋田だとどこもそうかもしれませんが)超高齢者の患者さんとの関わりが多いと思います。

稀ならず既往歴は煩雑としています。個人的には、こういう方の病態把握に自分なりに取り組み、100点でないにしろ自分なりの解決策を提案してみる、この繰り返しが最も研修医の対応力を育むんじゃないかと考えたりします(そしてその訓練にはぴったりの病院だと思います)。

当直も任せっぱなしという体でなく、段階を踏んで開始するスタイルを採っています。親身な上級医が多く時間外のひよんな質問も歓迎してもらえる土壌があり、これは個人的にとってもありがたかった点です。研修医は、えてしてそのとき知るべきことよりただ知りたいことの方ばかり見えちゃうものよなあ、と自分の研修生活を省みたりします。

総合診療医がやっきに取りざたされる昨今ですが、サブスペシャリティを志す者もまだまだ市中に出れば否応なく非専門的対応が必要とされる世の中です。そして初期研修は専門領域に染まりつつも全科的教育が受けられる稀有な期間です。ぜひ当院で高水準なバランスを備えた研修医を目指しませんか？



石成 隆寛  
(令和元年度修了研修医)



榎原 直起  
(令和2年度修了研修医)

市立横手病院で2年間初期研修をさせていただいた榎原と申します。

研修を始める前には志望科が決まっておらず、場所にもこだわりはなかったのですが北海道から九州まで10病院ほど見学に行きましたが、その中で最も雰囲気が良いと感じたのが横手病院でした。特に医師とコメディカルの方々の関係が良く、働きやすそうだと感じました。

実際の研修で感じたのはやはり病院の雰囲気がとても良いということです。上級医の先生もコメディカルの方々も優しい方が多く、迷うことや困ったことがあっても相談しやすいです。

2年目から始まる当直は緊張感があり、大変なこともあります。翌日の救急カンファの後は、勤務が免除されゆっくりと休むことができます。救急カンファでは当直中の症例全てのチェックとフィードバックがあるため疑問点は解消することができます。

大規模な病院ではないため重症患者数は大きな病院に劣りますが、将来どの診療科に進むにしても経験するであろうモンディーズは十分すぎるほど経験可能です。一般的な臨床を学ぶという意味では2年間の研修は非常に有意義であったと思っています。

ただし、横手病院にない診療科を強く考えている方で、初期研修中もその勉強をしたいという方は他の病院を選んだほうが良いかもしれません。なるべくストレスのない病院で働きたい、基本的な臨床能力を身に着けたいという方にはお勧めの病院ですので、興味を持った方には是非一度見学に来ていただきたいと思います。

消化器内科では消化器系全般のトレーニングができます。基本的に研修医主体に行動してもらいますが、バックアップはしっかりしますので不安がなく、技術の習得も速いです。特に上部・下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術など内視鏡的治療が多く、近隣施設から紹介される静脈瘤を含めた消化管出血、胆道感染など消化器疾患の救急にも十分対応できるようになります。将来市中病院で地域医療に貢献したいと考える方に最適な環境です。

★田口先生へ★

いろいろな疾患への初期対応がきちんとでき安心してみていただけます。後期研修を開始して半年ですが、胃の粘膜下層剥離術もTRYしてもらっています。

最近感じたことは、いろいろな手技の手際がものすごく良く冷静だということで、消化器内科に必要な資質を十分持っています。楽しそうに仕事をしているのもよいことです。持続して成長する能力を持っていると思いますので、伸ばせるようにしたいと思います。がんばってください。

日本消化器内視鏡学会  
指導医



副院長 船岡 正人

後期研修医



消化器内科医員 田口 由里

私は秋田大学医学部附属病院にて1年間研修した後、たすきがけ制度を利用し2年目の9月より市立横手病院にて研修をさせていただきました。志望科であった消化器内科を中心に研修し、研修生活2年間の集大成を飾ることができました。消化器内科の研修では、上部下部消化管内視鏡、腹部超音波検査など消化器内科として必要な技術を習得することができます。指導医の先生方よりご指導いただきながら、実際の患者さんへの診療を通して学ぶことができ、3年目からの後期研修医生活も大変充実したものとなっています。

★船岡先生へ★

私は2年目の後半まで将来の志望科を決められずにいましたが、横手病院での研修を通して消化器内科を専攻することに決めました。市立横手病院では7人の消化器内科医が常勤しており、消化器センターにて毎日内視鏡検査、超音波検査を行っております。研修生活を通し、市立横手病院の先生方の医療に対する姿勢や、消化器疾患への専門的な治療を見て自分もそうなりたいと憧れる気持ちが強くなり、消化器内科を専攻する決め手となりました。私も1日も早く先生方のようになれるよう毎日を過ごしております。

## 処遇

身分	常勤職員(会計年度任用職員)		
給与(基本給+研究手当)	1年次	510,000円(月額)	2年次 540,000円(月額)
賞与	1年次	825,000円(年額)	2年次 875,000円(年額)
勤務時間	8:30~17:15		
手当	通勤手当、時間外勤務手当など		
当直	月4回まで(2年次のみ) 当直1回当たり5万円程度支給 ※当直翌日は、業務引継後、勤務免除になります		
医師賠償責任保険	当院にて病院賠償保険加入あり、個人加入は任意		
休暇	有給休暇	1年次 20日 2年次 20日	
	夏季休暇	3日	
	特別休暇	冠婚葬祭や病気休暇など	

## 病院見学

個別病院見学を随時受け付けておりますので、市立横手病院のホームページをご確認の上、お申込みください。

内容 希望の診療科を見学していただきます。



病院見学QRコード

## 募集要項

応募資格	令和4年医師国家試験受験予定者
選考方法	面接(オンライン対応可)
選考日	随時(希望日をお知らせください。)
募集人員	4名
応募方法	市立横手病院ホームページをご覧ください。



研修医募集QRコード

## アクセス



- 横手駅から当院まで  
バス 15分  
横手駅東口の「横手バスターミナル」乗車、  
「横手郵便局前」下車  
タクシー 5分



- 横手ICから当院まで  
車 約10分
- 秋田空港から当院まで  
車 約1時間(秋田自動車道経由)



〒013-8602  
秋田県横手市根岸町5番31号  
市立横手病院 総務課 企画係  
TEL:0182-32-5001  
FAX:0182-36-1782  
URL:<https://www.yokote-mhp.jp/>